

●編集発行 財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山字北千保19番8 ビッグバレットふくしま3階 ☎(024)947-4400 FAX(024)947-4475

■郡山地域テクノポリス推進機構ホームページアドレス <http://www.techno-media.net6.or.jp/> ■インキュベーションセンターホームページアドレス <http://www.monodukuri.net6.or.jp/>

■Eメール [テクノ] [techno@nm.net6.or.jp](mailto:techno@nm.net6.or.jp) [ニューコメ] [info@nm.net6.or.jp](mailto:info@nm.net6.or.jp)

## 第7回 産・学・官連携フォーラム(平成18年度 第6回 IT交流プラザ)



主催: 日本大学工学部工学研究所/  
(財)郡山地域テクノポリス推進機構/  
郡山地域ニューメディア・コミュニティ  
事業推進協議会

実施年月日: 平成18年7月14日(金)

実施場所: 日本大学工学部 50周年記念館

参加人員: 約120名

今年で7回目となるこのフォーラムは、第1部で、ものづくり大学名誉教授の上田惇生先生が、産学官連携の在り方についてアメリカの経済学者ドラッカーの経営思想の観点から講演し、第2部では今夏(H18.8月)開所の「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」が担う期待と課題について、産学官の代表がパネルディスカッションを行いました。

### 第1部 基調講演

「文明の担い手としての産学官連携—ドラッカー経営思想の真髄」

ものづくり大学名誉教授 上田惇生氏

◆文明というものを考えれば、産学官の連携は当然のことであり、それが今本格的に始まるということである。

◆ドラッカーが推奨する言葉、何をもちて憶えられたいか。人は、日常の一つ一つの動きの中で、自分が成りうるもので今の自分よりいいものとして憶えられたいものである。そうすれば、あらゆる

行動がいい方向に向いていくものである。視線がちょっと上を向くことによってすべてが変わるものである。

◆例えば、郡山のインキュベーションセンターは何によって、何をもちて憶えられたいか、そういう意識を持って取り組んでいくことが大切である。すなわち、描くということが、すべてを変えていくものである。



上田惇生氏

第2部 パネルディスカッション  
「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターへの期待と課題」

【コーディネーター】

・藤原雅美氏(日本大学工学部工学研究所次長)

【パネリスト】

・藤島初男氏(福島県商工労働部地域経済領域産業創出グループ参事)

・鈴木茂清氏(郡山市商工労働部商工振興課長)

・内藤清吾氏(株式会社内藤工業所代表取締役社長)

・小沢喜仁氏(福島大学副学長(研究担当)・附属図書館長)

・金澤良弘氏(日本大学産官学連携知財センター副センター長)

・熊田正治氏(財団法人郡山地域テクノポリス推進機構常務理事)

清水誠二氏(日本大学工学部機械工学科教授)

◆近年、大学のものづくりの力は落ちており、日大の機械工学科では、今年度から学部の2年生に対して工作実習を再開しているが、今夏、学内にインキュベーションセンターが開所され、そこに試作センターが備え付けられているため、それをうまく活用できることを期待している。

◆インキュベーションセンターには、起業家とのパイプ役やテクノポリス圏域の独自の製造業などの創出による地域経済の活性化を期待している。

◆福島県ハイテクプラザとインキュベーションセンターの連携を図っていくことが大切である。

◆県内の15大学等で、福島県高等教育協議会というネットワークを形成しているが、そういったネットワークに産業界が積極的にに関わり、連携を深めていく必要がある。

◆入居者がビジネスモデルとして確立していくことができるような支援など、インキュベーションマネージャーの果たす役割は非常に大きい。

◆複数の企業が組んでインキュベーションセンターを中心としたプロジェクトを進めていけるような体制が取れることを期待している。

◆インキュベーションセンターを活用して、近くに顔の見える距離で、企業同士の連携を深めることが非常に重要である。

### 第3部 ポスターセッション

大学から15の研究テーマが公開され、盛会のうちに終了しました。

## 第8回 ユニバーサルデザインフェア・UD夢市

主催:ふくしまユニバーサルデザインフェア実行委員会((財)郡山地域テクノポリス推進機構・郡山商工会議所・福島県デザイン振興会・NPOふくしまユニバーサルデザイン)

共催:福島県・郡山市・須賀川市

実施年月日:平成18年9月22日(火)・23日(水)・24日(木)

実施場所:ビックパレットふくしま

参加人員:約12,000名

今年で8年目を迎える本イベントは、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、「住」「医」「創」「カルチャー」「食」の5ゾーンに県内外104の企業、団体、学校が出展し、すべての人が安全で健やかに暮らせ、活動しやすい、環境に優しい、高齢者や障害者にも使いやすい商品、製品、システム等を提案しました。

### ◆イベント

・UDビジネス・フォーラムin福島

「よみがえれニッポン!よみがえれ福島!!」

講師:放送ジャーナリスト

ばばこういち氏

「元気が湧く、ヒントが分かるものづくり・まちづくり」

講師:にいがたUD21 岩田事務所

岩田 桂氏



### 「ユニバーサルデザイン政策大綱とバリアフリー新法について」

講師:国土交通省総合政策局政策課課長補佐 小野田吉純氏

・UD寸劇(NPO地球村)

・UD音楽祭

聴くとやさしい気持ちになれるUD音楽。

・世界のベンチコンテスト

・UDファッションショー

衣装協力 コシノ商事(株)

県内デザイン専門学校の皆さん。



## 平成18年度第11回IT交流プラザ「クリエイターズフォーラム2006&第4回ホームページコンテスト2006表彰式・作品発表会」

主催:(財)郡山地域テクノポリス推進機構/郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

実施年月日:平成18年12月16日(土)

実施場所:ビックパレットふくしま

参加人員:約80名

5月より6回に渡って、制作・運営両面から「これからのWeb」について総合的に考え、開催してきた「クリエイターズセミナー」の集大成として、クリエイターズフォーラムを開催いたしました。また、技術的な成果披露の場であった郡山地域「第4回ホームページコンテスト2006」の表彰式と作品発表会も併せて行いました。

### ■第1部 クリエーターズフォーラム

「Googleの活用とWeb3.0へ繋げるサイト構築」

講師:合資会社トム

キャット代表

中沢智之氏



中沢智之氏

〔Googleの活用〕

◆便利な使い方が無数にあるGoogleだが、その使い方を熟知している人は少ない。しかしWebクリエイターとして利用する場合には、便利な検索方法や、Googleマップ、アドセンスの利用などある程度限られてくる。また、そのサービス利用には十分な注意も必要。SEO的には、Googleへのサイト登録やGoogleウェブマスターツールの利用なども有効である。

〔WEB3.0へ繋げるサイト構築〕

◆今後10年を生き抜くWEBである為に技術、メディアの進化についていかななくてはならない。その際、クリエイターに求められるのはスキルと、個性の時代に合わせたコンテンツ制作である。

◆WEBを制作する時には、「誰に喜んでもらうべきか?」ということを考えて制作するといかない。ホームページを作るお客さんを満足させるということは、そのお客さんが、ホームページによ

りお客さんのお客さん(クライアントのクライアント)との関係がうまくいくということ。その関係がうまくいって初めてホームページをつくって効果があったということになる。

◆そのような中でクリエイターに求められるのは、顧客に利益をもたらすビジネスモデルを提案できるスキルである。その商品やサービスを望む人に、上手に商品やサービスを結びつけていくスキル(ホームページの内容の構成や、キャッチコピー、商品からイメージするメリットのテキスト化など)がとても大切。

◆大量消費から個性の時代と変化してきている今は、個人の好みも複雑に分かれている。テレビや新聞といったマスメディアやハガキやチラシなどのアナログな宣伝、そしてホームページなどのネット経由の宣伝など多様なメディアをミックスして使うメディアミックスによる多角的な宣伝や多様な好みに合わせたプロモーションが非常に重要である。

■第2部 郡山地域「第4回ホームページコンテスト2006」表彰式・作品発表会



応募総数103点の中から、グランプリをはじめとする各賞9作品が選ばれ、その受賞者表彰式と審査委員長の講評(作品発表)が行われました。

【コーディネーター】



加瀬澤 正氏

ホームページコンテスト審査委員長  
日本大学工学部情報工学科 助教授  
加瀬澤 正氏

◆昨年度も委員長を務めた加瀬氏は、「今年度は、昨年度よりも応募数も多く、またレベルも非常に上がった。そのことは、大変うれしいこと。しかし、上がったレベルが均一となっており、その中でオリジナリティ性のある作品を見つけることがとても難しかった」と審査の感想を述べた上で、グランプリ他、賞を得た作品の講評を行いました。

◆グランプリを受賞したエヌケー・テック(株)制作の「大七酒造株式会社」ホームページは、コンテンツの量・質ともに優れており、その広い情報をうまくまとめている点が評価されました。また準グランプリの国際アート&デザイン専門学校のホームページは、圧倒的なデザイン力とブログを効果的に使った即時性のある情報が評価されました。

■受賞者一覧

賞名	応募者	作品タイトル
グランプリ	NKテック(株)	日本酒の正統、大七酒造株式会社
優秀賞	国際アート&デザイン専門学校	国際アート&デザイン専門学校2006
商用ビジネス部門優秀賞	Web Warab	Windship
教育機関部門奨励賞	郡山市立明健小学校	郡山市立明健小学校ホームページ
教育機関部門奨励賞	郡山市立郡山第二中学校	郡山二中ホームページ
個人・趣味部門優秀賞	Taka	A CAZY GARDEN
個人・趣味部門優秀賞	P-master	こおりやまぐるめまっぷ
創作部門奨励賞	人見 智博	パパはサンタクロース
創作部門奨励賞	大堂寺 幸	白昼夢

テクノポリス新春講演会2007「中小企業は連携で生き残れ！」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
共催：郡山地域テクノポリス市町村協議会／郡山地域テクノポリス推進協議会／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
実施年月日：平成19年2月6日(火)  
実施場所：ビックパレットふくしま  
参加人員：約80名

1. 中小企業の景況
2. 発注側の困窮
3. 産業構造とニーズ
4. 国内産業の激変
5. コーディネートと広域連携
6. 国の支援策「新連携」活用
7. 産学官(公)連携の実践
8. 「中小ものづくり高度化法」活用
9. 中小企業の経営課題
10. 中小企業の生き残り「経営戦略」



テクノ新春講演会 2007チラシ

演題：「中小企業は連携で生き残れ！」  
～広域連携・産学官連携・新連携の成功事例～  
講師：東成エレクトロビーム株式会社 代表取締役社長 上野 保氏

製造業を取り巻く経営環境がめまぐるしく変化し続けるなか、中小企業が持続的な発展を続けるためには、他企業・大学・他地域との連携による、新製品開発・新事業創出への取り組みや単独企ではなし得なかった高付加価値の商品・サービスの提供を行うなど、新たな企業経営が求められています。

昨年10月に郡山に、新事業や研究開発の拠点として「郡山テクニカルセンター」を開所し、地域企業等とのビジネス拡大のサポートを展開している東成エレクトロビーム株式会社の上野社長を講師にお迎えして、中小企業が生き残るための様々な連携方策についてお話いただきました。

講演内容





**主催:** (財)郡山地域テクノポリス推進機構  
**実施年月日:** 平成18年10月6日(金)～平成19年3月2日(金)  
**実施場所:** 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター/日本大学工学部  
**参加人員:** 26名

(財)郡山地域テクノポリス推進機構では、福島県の委託を受け、県内中小製造業等の中核となる従業員の方々を対象にテクノポリス圏域企業、日本大学工学部、(財)郡山地域テクノポリス推進機構の産学官連携により、今後成長する先端技術に対応できるような基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業として、「Meister's College」(マイスターズ・カレッジ)を実施しました。

期間は平成18年10月6日から平成19年3月2日までの約5ヶ月間、基本的に毎週水、金曜日の午後6時から午後9時までの3時間、日本大学工学部敷地内にある郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター及び日本大学工学部などで、座学・実習が行われました。

●開講式  
 【主催者挨拶】



熊田正治氏

(財)郡山地域テクノポリス推進機構常務理事 熊田正治が、「ここで習得し

た知識と技術を、皆様の企業等に活かしていただきたい」と挨拶しました。

【祝辞】



小野沢元久氏

日本大学工学部長 小野沢元久氏が、「日本大学工学部の敷地内に建設された郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターを活かして、この「マイスターズ・カレッジ」を開催できたことはすばらしいことであり、皆様には、是非頑張って受講していただきたい」と祝辞を述べました。

●オリエンテーション  
 【受講ガイダンス】

日本大学工学部教授 清水誠二氏が、「マイスターズ・カレッジ」の目的、教育プログラムの構成、座学・実技研修、受講上の諸注意等について説明しました。

【日本大学工学部が取り組む産学官連携の輪づくり】

日本大学工学部工学研究所次長 藤原雅美氏が、日本大学工学部教員の研究内容、工学研究所の関連組織、産学官連携の概念モデル等について説明しました。

【福島県の産業構造と産学官連携による新事業創出関連施策】

福島県商工労働部産業創出グループ参事 藤島初男氏が、県産業創出グループの業務、福島県の産業構造、新事業創出関連プロジェクト等について説明しました。

【郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター】

(財)郡山地域テクノポリス推進機構常務理事 熊田正治が、郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター整備検討の経過、施設の概要等について説明しました。

●「マイスターズ・カレッジ」カリキュラム  
 授業スケジュールは、別表のとおりです。  
 ●「マイスターズ・カレッジ」実習

12月27日に日本大学工学部敷地内にある郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター及び日本大学工学部において「マイスターズ・カレッジ」の実習が行われました。今回の開講講座名は次の4講座です。

○講師: 日本大学工学部機械工学科 教授 横田理氏

授業名「高温溶射および低温溶射による被膜作製」

溶射は、液体状態にした金属、セラミックス、プラスチックなどを前方に吹き飛ばして素材上に被膜を形成する方法です。ここでは、ブラスト加工を施したステンレス鋼表面を高温溶射法及び低温溶射法による被膜を作成しました。

○講師: 日本大学工学部情報工学科 専任講師 小林義和氏

授業名「生産情報システムー微細加工と計測ー」

3次元加工機による3次元加工、表面テクスチャ生成装置による微細加工及び走査型白色光干渉計による計測等を行いました。

○講師: 日本大学工学部機械工学科 教授 清水誠二氏

授業名「ウォータージェット加工実習」

ウォータージェット加工で使用される高速水噴流及び研磨材を添加したアプレシブジェットの流動の様子を高速VTRや瞬間写真を使用して観察しました。さらに、アプレシブジェットに関しては、各種パラメータを変化させた切断実験を行いました。

○講師: 日本大学工学部機械工学科 助教授 齋藤明德氏

授業名「NC工作機械の精度検査」

今回の実習はインキュベーションセンターの試作センターに導入した「マシニングセンタ」を使用して、NC工作機械の総合的な精度を評価できる円運動試験を行い、試験方法及び試験条件の設定について学習しました。



藤島初男氏

●工場見学

○林精器製造(株)工場見学

(須賀川市森宿)

各種腕時計側(ウォッチケース)の製造及び電子機器部品製造等を行っている林精器製造(株)を見学しました。

○山本電気(株)工場見学

(須賀川市塩田)

家電関連機器用モータをはじめ、各種モータと制御機器及び制御回路の開発・製造・販売を行っている山本電気(株)を見学しました。

●閉講式

【主催者挨拶】



(財)郡山地域テクノポリス推進機構理事 大槻順一が、「マイスターズ・カレッジ」の座学・実習などにおいて学んだものを本業で活かし、会社の発展に貢献していただきたいと挨拶しました。

【祝辞】

日本大学工学部長 小野沢元久氏が、受講生の皆さんに、地域社会の先導者としての役割を担っていただければ、この「マイスターズ・カレッジ」の意義が高く評価され、地域社会のものづくりに対する意識が高まってくると祝辞を述べました。



■マイスターズ・カレッジ授業スケジュール

回	授業日	講座名	授業名	講師名
1	10/6(金)		オリエンテーション	藤原雅美、清水誠二、藤島初男、熊田正治
2	10/11(水)	基盤	生産管理—古典から現代まで—	星野 珙二
3	10/13(金)	コア	材料加工の基礎1	横田 理
4	10/18(水)	コア	材料加工の基礎2	横田 理
5	10/20(金)	コア	超音波応用加工概論	神 雅彦
6	10/25(水)	トピックス	システム制御の将来技術	阿部健一
7	10/27(金)	コア	切削加工のシミュレーション	笹原弘之
8	11/1(水)	トピックス	トライボロジー	加藤康司
9	11/8(水)	実習A	高温溶射および低温溶射による被膜作製 超塑性材料の高温引張試験	横田 理 高木秀有
9	11/9(木)	実習A	生産情報システム—微細加工と計測—	白井健二
10	11/10(金)	コア	MEMS技術1	坂野 進
11	11/15(水)	コア	MEMS技術2	坂野 進
12	11/17(金)	実習B	インキュベーションセンターの施設見学と材料試験 MEMS技術の実験実習	橋本 純 坂野 進
13	11/22(水)	基盤	組織リスク管理の実践的技法	北村正晴
14	11/24(金)	トピックス	バイオ技術—遺伝子診断の応用—	齋藤 烈
15	11/29(水)	コア	ウォータージェット加工技術1	清水誠二
16	12/1(金)	コア	ウォータージェット加工技術2	清水誠二
17	12/6(水)	コア	工作機械の構造と性能評価1	齋藤明德
18	12/8(金)	コア	工作機械の構造と性能評価2	齋藤明德
19	12/13(水)	コア	生産情報システム1	白井健二
20	12/15(金)	コア	生産情報システム2	白井健二
21	12/20(水)	トピックス	医療・福祉機器及び医療用センサシステム	尾股定夫
22	12/22(金)	実習B	医療機器のメカニズム及び操作性に関する基礎実験	尾股定夫
23	12/27(水)	実習A	高温溶射および低温溶射による被膜作製 生産情報システム—微細加工と計測—	横田 理 白井健二

回	授業日	講座名	授業名	講師名
23	12/27(水)	実習A	ウォータージェット加工実習 NC工作機械の精度検査	清水誠二 齋藤明德
24	1/10(水)	トピックス	電子材料	清水博文
25	1/12(金)	トピックス	機能性薄膜	西出利一
26	1/13(土)	実習B	光触媒性チタニア(TiO <sub>2</sub> )薄膜の作製	西出利一
	1/17(水)	実習A	ナノ半導体デバイス対応極薄酸化膜作製と評価に関する実習	清水博文
27	1/19(金)	実習A	ナノ半導体デバイス対応極薄酸化膜作製と評価に関する実習	清水博文
	1/27(土)	実習B	光触媒性チタニア(TiO <sub>2</sub> )薄膜の作製	西出利一
28	1/24(水)	トピックス	エネルギー有効利用のための先端熱技術入門	棚澤一郎
29	1/26(金)	トピックス	画像処理の基礎	加瀬澤正
30	1/31(水)	コア	先端機械材料1	小野沢元久
31	2/2(金)	コア	先端機械材料2	小野沢元久
32	2/7(水)	基盤	知的所有権	水野博文
33	2/9(金)	コア	材料の破損・破壊と特殊加工1	橋本 純
34	2/14(水)	コア	材料の破損・破壊と特殊加工2	橋本 純
35	2/16(金)	実習B	インキュベーションセンターの施設見学と材料試験	橋本 純
			MEMS技術の実験実習	坂野 進
36	2/21(水)	コア	超塑性変形のメカニズム1	藤原雅美
37	2/23(金)	コア	超塑性変形のメカニズム2	藤原雅美
38	2/28(水)	実習A	ウォータージェット加工実習	清水誠二
			NC工作機械の精度検査	齋藤明德
			超塑性材料の高温引張試験	高木秀有
39-40	3/2(金)	実習C	工場見学	藤原雅美、清水誠二、橋本 純、齋藤明德

## 平成18年度 第5回 IT交流プラザ「クリエイターズセミナー③」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
実施年月日：平成18年7月18日(火)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約60名



クリエイターズセミナーの第3回目は、(株)リアルインデックスにて、テクニカルディレクターとして、さまざまなサイトのデザイン、立ち上げに携わり、コーディネーターの内藤氏からも理想のクリエイター像と言われる國分氏に、最新のWeb技術の説明とその技術を習得するためにどんなことをすべきかについて、説明していただきました。

### ●セミナー

「Webクリエイターの必修科目」

講師：(株)リアルインデックス  
テクニカルディレクター

國分 亨氏

コーディネーター：

エヌケー・テック株式会社 代表取締役  
内藤清吾氏

◆クリエイターに必要な知識はたくさんあるが、それを全て完璧に使いこなしたり、習得したりすることは無理。自分が得意なことを育てていくことが今後活躍できるクリエイターとしては大切。

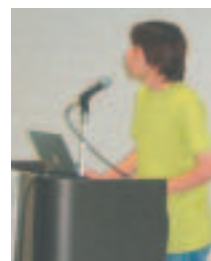
◆今後、必須のお勧めの知識(技術)は「CSS(スタイルシート)」、「Flash」、「プログラム(PerlやPHP)」、「JavaScript」、「XML」、「XOOPS」など。これらの中で自分が好きで、得意とするものを伸ばしていくことがスキルアップの近道である。

◆「スキルはどんどん陳腐化するものだ」、「今知っている技術だけで、あと10年後仕事ができるか」という意識を

持ち、スキルの陳腐化を防ぐためにも楽しみながら、新しいことを覚えていくという姿勢が大切であり、スキルアップへもつながる。

◆また、新しい技術を身につけるためには、ネット上の様々な便利なツール(RSSやSNSなど)を使って、最新の情報に辿り着くことが最も重要。そのスキルが流行する前に身につけておけばそれだけビジネスチャンスも増える。

◆新しい技術は、チャレンジしてもつまづくことも多いので、自分のペースで継続できることも大切。クリエイターの前にWebという言葉がついていると難しいが、どんな家にするか、どんな車を買うかなど生きていることがすべて



クリエイイトすること。そのような感覚で、Webもクリエイイトもしていただくと思いが軽くなる。

國分 亨氏

## 平成18年度 第7回 IT交流プラザ「ネットショップオーナー育成フォーラム&クリエイターズセミナー④」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
実施年月日：平成18年8月30日(水)  
実施場所：ホテルハマツ  
参加人員：約60名

ネットショップの運営面をサポートする講演会をクリエイターズセミナーの第4回目と合催で行いました。

ネットショップオーナー育成セミナーの講師だった石井氏には、市販のショップ作成ソフトのメリット・デメリットを、また自身も福うららというネットショップを管理・運営している大和田氏には、ネットショップ運営についての基礎を教えていただきました。

### ●第1部

「ネットショップオーナー～ここまで出来る!～」  
講師：(資)パソネットワールド  
パソコンインストラクター  
石井朋美氏



石井朋美氏

◆ネットショップを始めるためには、様々な方法があるが「ネットショップオーナー」という簡単に自作するためのソフトがある。ソフトで自作することで、初期投資や運営コストをおさえられるが、Webページをつくる知識はある程

度必要。

◆ただし、通販サイトを構築するためにつくられたソフトなので、お勧め商品ラインナップ機能や商品検索ボックスの作成機能など、通常のサイト構築ソフトに比べて通販に特化した機能がみついている。また管理機能を利用して、ショップ運営を管理することも可能。

◆しかし、簡単にショップを作成できるが「独自のサービスなどを展開する場合は、融通がきかない」ことなどデメリットもある。

◆ソフトを使えば簡単に低コストで作成・運営が可能だが、ネットショップの掲載は様々。サイトを構築する際には、どのようなお店にしたいのかという計画を基に、自分に合った方法を選んでほしい。

### ●第2部

「WEBショップ開店から運営まで～これだけは押さえておきたい～」  
講師：ストアハウス代表 大和田雄樹氏



大和田雄樹氏

◆WEBショップ開店には、「自社サーバ型」、「ショッピングモール参加型」、「自社サイト構築型」、「商品出品型」の4つがあり、それぞれ管理の自由度や、設定の手間、コストなどメリット、デメリットがあ

るので、自分のスキルや資金にあった開店方法を選ぶべき。

◆次にWEBショップ開業の流れとして、取扱商品を考慮し、Webショップの置き場所(どこにWebサーバを置くか)の決定や、決済手段の選択や発送方法の選択など開業前に決めておかなければいけない。

◆またルール・マナーとして、WEBショップは通販に属するので、特定商取引に関する法律に基づいて、発送・送料についてなど、明示しなければならない、またセキュリティ強化やアクセシビリティについても考慮すべきである。

◆デザインのポイントとしては、内部リンクの徹底や魅力的なキャッチコピー、また使いやすさやターゲット層に合わせたデザインも大切。

◆最後に、今後は携帯電話でのネット利用が増すので、PCサイトだけでなく、携帯でも閲覧できるサイトの構築も必要である。また小規模店舗や新規参入店舗の生き残りのため、アフィリエイトやドロップ SHIPPINGの利用など、単店舗発想から「複数店舗発想」に切り替えることが必要だと非常に重要である。

## 平成18年度 第8回 IT交流プラザ「クリエイターズセミナー⑤」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
実施年月日：平成18年9月21日(木)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約60名

クリエイターズセミナーの第5回目は、「ビジネスブログとSEO」と題し、東京から外部講師を招いての講演会を行いました。

東京を拠点に、ビジネスブログを使ったサイトの構築により数々の実績をあげられている中村氏にビジネスブログのメリット、ブログを使った簡単なSEO対策などを2時間にわたり講演していただきました。

### ●セミナー「ビジネスブログとSEO」

講師：アロマネット株式会社  
代表取締役 中村義和氏

◆ブログはホームページと同じように公開ができるものだが、一般的なサイトと違い専門的な技術がなくても始められるのがメリット。そのメリットをビジネス目的に利用したものが「ビジネスブログ」で、ほとんどビジネスブログは、普通のホームページと見た目が変わらないが更新が簡単な上、基本的なSEO対策が施されている。◆ビジネスブログを構築するためにはまずブログ構築ソフトが必要。無料のサービスでも構築できるが、ドメインの制限やカスタマイズの限界などデメリットが多いため、専用の構築ソフトを使った方がよい。



中村義和氏

◆また自分でできるSEO対策としては、人気のキーワードの把握や結果に結びつくキーワードの選定などニーズのある「キーワード」を掴むこと。ニーズのないキーワードでSEO対策をしてもムダになってしまう。

◆またもう一つのSEO対策は、「リンクされる」ことである。理想は相手から一方的にリンクされることだが、簡単にリンクしてもらうことはできないので、お互いに協力する相互リンクから始めるといい。

◆SEO対策はお金をかけなくてもコツコツと行うことができることだが、SEO対策で上位に表示され、そこで期待したアクションを起こしてもらうためには、サイトを訪れた人が引き込まれるような良質なコンテンツをつくるのが最も重要なことである。

## 平成18年度 第8回 IT交流プラザ「クリエイターズセミナー⑥」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
実施年月日：平成18年11月8日(水)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約60名

5月よりシリーズ化して、Webクリエイターを支援するため開催してきた「クリエイターズセミナー」の最終回は、「運営」という面での講演会を開催し、講演会終了後には交流会も行いました。

### ●テーマ

「ホームページをつくるだけじゃダメ～ホームページ運営とこれからの考える～」



内藤善之氏

内藤清吾氏

◆ホームページを更新するというビジネスについてだが、ホームページを更新するということの重要性を、ホームページに触れたことがない人にはあまり理解できないことが多いので、紙のパンフレットとの相違やホームページの特徴などわかりやすい例を示して納得してもらうことがまずは大切。また更新頻度や内容など、適切なアドバイスを行うことも必要である。

◆最近ではブログの登場などによって、誰でもホームページが更新できるようになってきているが、ユーザーと積極的に関わっていれば自分で更新するより、更新してもらった方が楽となることが多い。普段から面倒がらずに小さな仕事も引き受け、そのような関係を築いておくことがとても大切である。

◆ホームページを管理・運営するということは、ユーザーの伝えたいこと(ページに載せたいこと)をキャッチすること。そのために、ユーザーに合わせた細やかなやりとりやそれに付随した努力や工夫が最も重要である。

えば行政のサイトや地域の飲食ナビなどの価値が下がる可能性が高い。

◆理由はGoogleなどのキーワード検索により、そのようなポータルサイトを介さずにユーザーは情報を直接得るため。たとえ少数派の検索であってもロングテール現象によりそのニーズは証明されているので、地域ポータルサイトの価値は薄れ、検索されるサイトこそがポータルサイトになっていくのではないかと。

◆そのような時代のサイト構築は、企画・デザイン・テキストライターなど分業が必要。だが一つの会社で全てをまかなうことは難しいので、チーム制によってサイトを構築する必要がある。

◆また作りっぱなしではなく、更新やサイトの管理など制作後の対応や、コンサルティングなどサイト構築からビジネス代行までを行わなくては厳しい時代となってきている。

◆ホームページ制作というものは、印刷物とは違い何をもっておわりとするか難しい性質があるがゆえ収益をだすにくい。収益をあげるためには、ユーザーにとって価値のあるサイトにすることが重要である。

### 1. 『運営主体のWebビジネスモデルの紹介』

講師：ナフメディア(株)  
代表取締役 内藤善之氏

◆ホームページのサーバは365日24時間動いているのだから、自分たちもそれに合わせて、年中無休で働いている。そうすることで迅速に対応もできる。

### 2. 『Webサイトのこれから～作りっぱなしではダメ～』

講師：エヌケー・テック株式会社  
代表取締役 内藤清吾氏

◆Web2.0時代の到来により、Yahooの凋落やブログの普及、口コミマーケット時代などの特徴がみられる。これらの特徴により地域のポータルサイト(例

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
 実施年月日：平成18年11月15日(水)  
 実施場所：ホテル虎屋  
 参加人員：約20名

郡山地域テクノポリス圏域(郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、三春町、玉川村)内のこれから創業予定の方、またすでに創業されている方を支援し、より活発な起業化、さらには元気ある企業とするため、「創業力向上セミナー」を開催いたしました。

●テーマ「困難に向かう」

コーディネーター：(有)ぱすわーど  
 代表取締役 水上哲夫氏  
 ・講師：エスケー電子工業(株)  
 取締役相談役 高木茂保氏  
 ・講師：(株)吉城光科学  
 代表取締役会長 吉田俊夫氏

[高木氏の講演]

◆小さな頃に負ったハンディキャップのおかげで嫌な思いもしたが、いいこともたくさんあった。天は悪いことばかりは与えない。悪いことというのは、裏を返せばとてもいいことを与えているということだと思ふ。  
 ◆大切なのは「負けたくない」という気持ちで努力すること。そしてとにかく勉強すること。そうやって努力しているうちにいずれチャンスがやってくる。

仕事をしていると、自分が悪くなくても謝らなくてはいけないこともあるが、相手を第一とした対応が評価されることも多い。世の中、特に商売をしていると「正しい・正しくない」という理論だけではうまくいかないことも多い。



高木茂保氏

◆また時代を先読みする力も必要である。何かを新しく始めたり、変えたりすることは、初め失敗するかもしれないが、時代は変化するものなので、その時代に合った対応をしていかなくてはいけない。ただし人間には、運があるのでそのチャンスを逃さない努力は必要。  
 ◆難しい仕事をこなすことでそれだけの力がついてくるということをとくさんの経験から学んだ。「未知は魅地 実学で拓け～毎日が未知との遭遇である。私たちに教科書はない。自分達で拓くしかない。～」という言葉座右の銘として掲げている。何か難しい仕事、やったことがない仕事こそが価値がある。わからないからこそ、本気になって耕すだけの価値がある。そういう姿勢が非常に大切である。

[吉田氏の講演]

◆「天の利、地の利、人の利」、「先ずれば他を制す」、「小さく生んで大きく育てる」という言葉を大切に、仕事をしている。  
 ◆事業をはじめるきっかけは「天の利」。

事業を始める時は誰かが既にやっていることではないことをすべき。「天の利」というのは出逢いでもある。出逢いと出逢いが重なって、チャンスが生まれる。



吉田俊夫氏

◆「人の利」としては、技術者などが不足しているという欠点を逆の発想で捉え、パーツメーカーとしていくことを決意。パーツメーカーという自由な立場から、どのような相手とも取引できるという長所がある。欠点を長所にする逆転の発想も大切である。  
 ◆「地の利」としては、事業の基盤となる土地はとても重要である。事業の質や規模に合わせ、将来を見据えながら自分の目で確かめて選択すべきだ。ただし海外などへ進出する際は、文化の違いであらゆる問題に直面することも多い。そういった文化の違いにも柔軟に対応していかなくてはならない。  
 ◆「小さく生んで大きく育てる」だが、大きな借入れにより、大きく工場をつくり、大きく設備投資することも可能だが、仕事がなくなった時のリスクが高いため、事業規模に合わせて投資を拡大していく方が、リスクが少ない。  
 ◆商売は全て出逢いと縁。これがなければどんなに優秀でも成功しない。商売は人と人の心の付き合いが大切。そして交渉は企業の大小関係なく対等で行うことがとても大事である。

「OA推進リーダー研修」講座



主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
 実施年月日：平成18年12月20日(水)～平成19年1月11日(木)  
 実施場所：日本大学工学部 第1演習室  
 参加人員：13名

ノポリス推進機構では、日本大学工学部と連携し、職場等でITに関するリーダーとしてIT化を牽引できるような人材を育成するため、下記のような講座を開催いたしました。

●OA推進リーダー研修講座

・受講者13名(男性6名、女性7名)  
 ・研修期間及びカリキュラム

日付	カリキュラム
12月20日(水)	会計経理の知識、マネジメントの知識、業務改善のモデル化
12月21日(木)	情報システムの開発と知識、情報システムの運用管理
12月22日(金)	LAM,WANネットワーク、インターネットNW通信技術
1月10日(水)	小規模ネットワーク構築学習
1月11日(木)	関数活用実習、データベースにおけるマクロ作成

・講座の目的と内容

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会及び(財)郡山地域テクノ

やネットワークの管理担当を任せられ、パソコンに関するありとあらゆる質問を受けているような方を対象に、基礎を学び直し、トラブルシューティングやネットワーク構築等の実習を交えることで、より高度な知識を習得し、職場等に還元できるような人材を育成するための講座を開催いたしました。

・アンケートより

「あいまいだった点がいくつかクリアになった。我流で使っていたエクセル等の使用方法が整理できた」や「個人的にはうろ覚えだった知識と独学で思いこんでいた部分の確認と学習に大変役に立った」などといった意見が寄せられ、それぞれが苦手としていた部分を克服するための機会としていただけた講座となりました。

## 各種助成制度の技術等審査委員会審査結果

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
実施年月日：平成18年12月19日(火)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：8名

(財)郡山地域テクノポリス推進機構では、企業や企業グループ(産学連携を含む)の研究開発活動並びに新事業創出への取り組みを支援するために各種助成制度を設けております。

このたび、技術等審査委員会を開催し、平成18年度下半期の助成事業の対象事業を次のとおり決定いたしました。

### 【研究開発助成】

(株)フツロ

「生分解性プラスチックの高度発酵分解処理システムの開発」

整形外科用インプラント製品の開発・企画・販売の(株)フツロ・テクノサイエンス事業部(郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター内)は、このほど(財)郡山地域テクノポリス推進機構の助成を受けて、「生分解性プラスチックの高度発酵分解処理システム」の開発に着手しました。

廃棄物を低減、循環型社会の実現に貢献することを目的に、既に開発済み



である同社生ごみ発酵分解処理システム「BeGreen」を改良し、短時間での生分解性プラスチックの分解を可能とする制御条件・効率向上を図るとともに、微生物学的アプローチによる分解過程の解析や生分解性プラスチックの分解微生物の検索・分離を行い、バイオチップ化する、専用の発酵分解処理システム開発を目指します。

これにより、既存プラスチック製品の生分解性プラスチックへの代替を促し、

食品残渣・パッケージのリサイクル率を向上させ、食品業界における食品リサイクル法と包装リサイクル法の遵守に貢献するほか、将来的にはディスプレイ(使い捨て)プラスチック製品が普及している医療業界における医療廃棄物の低減にまで繋げるとしています。

このシステムの研究開発は、東北大学大学院及び郡山地域テクノポリス圏域企業との産学官連携により実施されます。

## アドホック研究会(郡山)～会長 坂口進～

アドホック研究会(郡山)は、会員相互の技術、情報などの交流と幅広い研究を通して新技術、新商品、新事業の開発および新市場の開拓等を促進するとともに、生産販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的として、各種事業を展開しています。

会員：18名

### ◆8月例会

- ・アサヒビール園福島本宮店  
工場視察見学
- ・交流会

### ◆9月例会

- ・福島県農業総合センター視察見学
- ・交流会

### ◆10月例会

- ・海外視察研修  
(ロシア/ハバロフスク)  
「ハバロフスクテクノセンター視察」

### ◆11月例会

- ・宿泊研修会 工場視察  
「株式会社いわき精機」  
「株式会社赤井工業所」
- ・交流会

### ◆12月例会

- ・研究会「製品事故に学ぶ」  
アドバイザー：郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター  
インキュベーションマネージャー  
永島巖氏
- ・交流会

### ◆2月例会

- ・工場見学  
「東成エレクトロビーム(株)郡山  
テクニカルセンター見学」
- ・新春講演会  
「中小企業は連携で生き残れ！」  
講師：東成エレクトロビーム(株)  
代表取締役 上野保氏

### ◆3月例会

- ・郡山市ものづくりセミナー  
「危機から甦った下請け企業」  
講師：元(株)城南製作所  
専務取締役 中村敏明氏
- ・平成19年度事業(重点事業)の検討
- ・交流会



## 須賀川方部アドホック研究会 ～会長 吉田一興～

郡山地域テクノポリス推進機構内にある異業種交流グループ、「須賀川方部アドホック研究会」(会長 吉田一興)は、技術情報の交流と幅広い研究を通しての新事業開発や生産販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。

会員は、須賀川市、鏡石町、石川町、玉川村の企業経営者、会社役員などの方です。

会員:16名

### 【平成18年度開催例会】

#### ◆8月

人工照明等を取り入れた植物の生育状況視察  
(有)アグリハウス秋山 須賀川市

#### ◆9月

大規模栽培施設視察  
(TSファーム白河 白河市)

#### ◆10月

企業訪問(SUS(株) 須賀川市)  
ロシア(ハバロフスク)海外視察報告

#### ◆11月

企業訪問(株ひまわり 須賀川市)



#### ◆12月

アドバイザー柳沼力夫氏のテーブルスピーチ

#### ◆2月

テクノポリス新春講演会

#### ◆3月

19年度事業計画の意見交換会



## 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議全体会・交流会

主催:郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

実施年月日:平成18年12月18日(月)

実施場所:ビッグパレットふくしま

3階 小会議室2

参加人員:約30名

テクノポリス推進機構が支援するアライアンス形成会議は、郡山地域テクノポリス圏域内の企業が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、圏域内の産業の活性化を図ることを目的としています。

平成18年12月18日(月)には、全体会・交流会が開催されました。

### 【あいさつ】

当形成会議会長(日本全業工業(株)代表取締役社長)福井邦顕氏が、現在の経済状況、当形成会議の取り組み状況な

どについて挨拶しました。

### 【奥羽大学との連携】

奥羽大学歯学部教授 浜田節男氏、薬学部薬学博士 佐藤博泰氏が、当大学の歯学部、薬学部の研究内容等について説明しました。

### 【共同受注活動状況・情報提供】

受発注推進部会からは、訪問した企業の対応・成果などや研究開発依頼案件、産学官連携などの活動状況の報告を行いました。

### 【3研究会(環境・医療・機能性材料)の平成18年度状況】

研究開発推進部会からは、「環境保全・共生科学技術研究会」、「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」及び「機能性材料・製造プロセス研究会」の平成18年度開催状況を報告しました。

### 【産学官連携、医療福祉プロジェクト、半導体関連プロジェクト等】

福島県商工労働部産業創出グループ 参事 藤島初男氏が、産学官連携による

新事業創出とふくしま型産業クラスターについて説明しました。

全体会終了後、交流会を開催しました。



## 平成18年度 第2回「環境保全・共生科学技術研究会」シンポジウム～福島県における循環型社会形成の現状と問題点～

主催:(財)郡山地域テクノポリス推進機構、日本大学工学部工学研究所

実施年月日:平成18年10月13日(金)

実施場所:ビッグパレットふくしま

参加人員:70名

「福島県における循環型社会形成の現状と問題点」を統一テーマとし、省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減、資源循環などについて、各パネリストから事例発表等

を行い、その後、長林教授をコーディネーターとし、今後の循環型社会形成の現状と問題点について、議論を深めました。

### 【主催者挨拶】

○日本大学工学部工学研究所

次長 藤原雅美氏

循環型社会形成の現状と問題点を認識し、今後の活動等に活かして欲しいと挨拶しました。

### 【コーディネーター】

○日本大学工学部土木工学科

教授 長林久夫氏

省エネルギーや再利用及び資源循環が提唱され、産業界や経済界においても環境保全に向けた製品や商品など、積極的な展開が見られ、また、環境団体による様々な活動も展開されている。しかし、その活動の多くは独立型であり、循環型社会形成に至るためには、行政や経済界及び専門業種、そして市民や

各団体の連携が必要であると説明しました。

#### 【パネリスト】

○福島県生活環境部循環型社会推進グループ参事 荒川 実氏

福島県循環型社会形成推進計画「うつくしま循環プラン」の計画策定の背景と目的、基本理念と施策の展開などについて説明しました。

○株式会社ひまわり

代表取締役社長 佐藤 博氏

地域との連携による廃食油の収集と地域通貨の流通、バイオディーゼル燃料(BDF)精製による社有車の燃料化、50kw太陽光発電システム、雨水再利用など、自社CO<sub>2</sub>の71%削減を達成した経緯などを切説明しました。

○郡山農業青年会議所監査 安田潤一氏((有)ハッピーファーム代表取締役)

郡山農業青年会議所の事業計画(キッズガーデン、ブランド戦略事業、作付け勉強会、お花畑事業、郡山めぐり市など)

を中心に、農業と循環型社会との関連及び循環型社会形成に向けた取り組み



## 平成18年度 環境保全・共生科学技術研究会「視察研修会」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／日本大学工学部工学研究所  
実施年月日：平成18年12月4日(月)  
実施場所：堆肥化施設「三風」(須賀川市)、(株)ひまわり(須賀川市)  
参加人員：21名

今回は、循環型社会の実現に向けて積極的に取り組んでいる先進企業を実際に訪問し、認識を深め、今後の研究会の活動に活かしていきたいと考え、『視察研修会』を開催しました。

#### ○堆肥化施設「三風」

あらゆる有機性物質(有害物質を含まないもの)を約25日間で高品質の完熟堆肥に再生し、環境への負荷をできる限り低減した状態で自然界に還元することができる施設です。

当日は、(株)平和物産代表取締役吉田一郎氏が施設概要等を説明しました。

レーンに投入された排出物が、100メートルの距離を移動しながら25日間かけて発酵させ完熟堆肥となります。原料である有機性排出物を発酵槽内に投

入し、発酵槽下部より空気を送り込みます。堆肥化施設「三風」は発酵の立ち上がり環境が良いため翌日には発酵槽内の温度が70～80℃まで上昇、表面からは湯気が湧き出るほど発酵分解が活発化します。原料の水分は投入時は約70～80%程度ですが、2日目には55～65%程度に低下します。

約2週間をかけて温度は60～70℃まで下降し、含水率が40～50%まで減少すると発酵は緩慢になります。この原料投入から約15日間を一次発酵といいます。その後、水分を補給すると発酵を再開し(二次発酵)、温度は70℃程度まで回復、水分も50%程度となります。二次発酵は微生物が発酵成分を使い切る概ね20日間程度で終了しますが、万一、難発酵性物質が多いなどの理由で多少発酵が遅れたときのことを踏まえて予備日として5日分を加え、全行程を25日間と設定しています。

完熟肥料は、水はけが良く水持ちに優れ、病害等に強い土壌作りに最適です。また、微量ミネラル成分が多種含まれ

ており、ミネラルバランスの優れた健康な土地作りに最適です。視察参加者は、実際に堆肥を手に取り、熱心に質問等をしていました。

#### ○株式会社 ひまわり

地域との連携による廃食油の収集と地域通貨の流通、バイオディーゼル燃料(BDF)精製による社有車の燃料化、50kw太陽光発電システム雨水再利用など、積極的に取り組んでいます。

当日は、(株)ひまわり代表取締役社長佐藤博氏が自社CO<sub>2</sub>の71%削減を達成した経緯などを説明しました。

京都議定書発効による法律の施行により、産業界の省エネルギーを促す法律である「改正省エネ法」や、大企業を対象にしたCO<sub>2</sub>の排出量の国への報告が義務づけられる「温暖化対策推進法」などが制定され、当社が「環境経営」に取り組むきっかけとなった背景などを説明しました。

当社の「環境経営」の実践計画として、下記の点が挙げられる。

- ①環境税対策(化石燃料に課す税)  
バイオマス燃料のBDFの生産と消費。太陽光発電によって化石燃料の消費を半減することで税の負担から回避する。
- ②リサイクル事業  
CO<sub>2</sub>の固定化となるバイオマス(有機性資源)、具体的には「汚泥」のリサイクル事業を実現する。
- ③排出権取引市場への参画  
CO<sub>2</sub>の排出削減で排出権を金融資産化する。



施設見学(「三風」)



## 第2回 医療福祉研究会

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構／日本大学工学部工学研究所  
実施年月日：平成18年9月29日(金)  
実施場所：郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター  
参加人員：約35名

#### コーディネーター

日本大学工学部教授 尾股定夫氏

今回は初めて「郡山地域テクノポリ

スものづくりインキュベーションセンター」1階会議室で開催しました。

泌尿器のバイオメカニクスの解明に貢献した世界的に名高い米国のスタンフォード大学医学部泌尿器科のクリス・コンスタンチノウ教授と日本大学工学部教授の尾股定夫氏を講師にお迎えして、開催しました。

医療・福祉機器等に携わる研究者、学生や企業代表の方が35名参加しました。



クリス・コンスタンチノウ氏



尾股定夫氏

◆講演 1

テーマ「スタンフォード大学における医療機器開発と臨床テスト及びFDA取得に関するシステム」

講師：スタンフォード大学医学部

泌尿器科 教授

Christos E. Constantinou

(クリス・コンスタンチノウ)氏

スタンフォード大学において医療機器開発にあたり、どのようにして臨床テストまでこぎ着けたのか。又FDA取得するためにどのようなシステムを構築したのか。次に大学と企業がどのように

して製品化したのかなど、具体例を持って説明して戴きました。

今回の講演は医療機器開発の現状を理解し、今後新たな新事業創出の方向性を見いだす有意義なお話をして戴きました。

◆講演 2

テーマ「海外における医療機器開発と臨床現場への応用に関する現況と我が国の展望」

講師：日本大学工学部教授 尾股定夫氏

電子医療機器など世界的な医療機器産業の集積を図ろうとする韓国のW

onju(原州)市の医療機器テクニカル形成に向けた取り組み等についてご説明を戴きました。

Wonju市の医療機器テクノバレーでは、1.医療機器の承認に関するサポート体制の構築

2. 評価システムの構築

3.プロトタイプ of 医療機器の製作 (デザイン含む)

等、総合的な支援ができるインフラが整備されている事が説明され、医療機器開発や臨床現場への応用の展望など海外事情についてのお話を戴きました。

平成18年度 第3回 医療・福祉機器等関連事業創出研究会

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構 / 日本大学工学部工学研究所

実施年月日：平成18年10月27日(金)

実施場所：日本大学工学部「50周年記念館6321教室」(大講堂)

参加人員：約80名

平成18年度第3回目となる「医療・福祉機器等関連事業創出研究会」を開催いたしました。

今回は、日本大学大学院・総合科学研究科生命科学主任教授の林成之氏を講師にお迎えして、知能や心の障害を残さない「脳低温療法」という治療法と今後の課題について、わかりやすく解説して戴きました。

◆講演

コーディネーター

日本大学工学部教授 尾股定夫氏

テーマ

「成功する脳と失敗する脳を知って医療技術を高める」

講師：日本大学大学院・総合科学研究科生命科学主任教授

林 成之氏

我々の日常生活において、素晴らしい成果を上げた人の体験談を聞いて、凄いなと感動しても、自分の生き方に

なかなか生かせない。それは、人間の頭を良くする仕組みと失敗する脳の仕組みを充分知っていないことや目的を達成する人間の脳の習性の原理が解っていないからだといひ、「脳の仕組みと原理」を解りやすく解説をして戴きました。特に物忘れを防ぐ方法として、「感動して覚える」「時間を決め、集中して覚える」などを指導して戴きました。

次に脳死や植物状態になるのを防ぎ、不可能を可能にしたといわれるこの「脳低温療法」を開発し、死の一步手前に陥った多くの患者の命を救ってきた世界的権威の林成之教授は講演の中で病院では瞳孔散大と平坦脳波、呼吸停止の3つがそろると、「死亡」とされるが、「脳幹の神経細胞はすぐには死なない。概念を考え直す必要がある」と。脳外科の救急病院で、従来では助からないような脳障害の救急患者を低温状態に維持すると、「まず脳波がよみがえり、次に心臓の拍動が始まる」そしてどんどん回復して、やがて後遺症もほとんどないくらいに回復すると「脳低温療法」の成功例を話されました。

また、今後の問題点の一つとしては、医療機器が高価で、現在保険で全くカバーされていないことをお話されていました。

\* 脳低温療法

脳に重度の損傷を受けた患者の脳温を一時的に32-34℃に保つことで脳内の代謝を抑制し、神経細胞の壊死を防ぎ、且つ酸素消費量や循環血液量を連続的にモニターしながら回復を目指す治療法。冷却には水冷式ブランケット(冷水を通した低温マット)などが用いられている。



林 成之氏



尾股定夫氏

平成18年度 第1回 機能性材料・製造プロセス研究会



研究会

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構

共催：日本大学工学部、福島大学地域創造センター、奥羽大学、福島県ハイテクプラザ

実施年月日：平成18年11月7日(火)

実施場所：ビッグパレットふくしま

参加人員約：約30名

今回は、日本大学工学部次世代工学技術研究センター所

有の測定機器を一般企業の皆様にも広くご利用いただくため、同センターの測定機器見学ツアーと講演を下記の通り開催致しました。

◆次世代工学技術研究センターの先端分析装置の見学

主な先端分析装置として下記の大型分析機器を西出教授中心に担当者の小山奈美さんと常盤聡子さんにもご説明いただきました。

1. 固体試料測定用超電界核磁気共鳴装置(NMR)
2. 昇温脱離ガス分析装置(TDS)

- 3.電界放射型走査電子顕微鏡(FE-SEM)  
4.走査型プローブ顕微鏡システム(SPM)

## ◆講演

テーマ「機能性薄膜の研究における大型分析機器の活用」

講師：日本大学工学部物質化学工学科教授 西出利一氏

「機能性薄膜の研究における大型分析機器の活用」と題して日本大学工学部次世代工学技術研究センターの所有する大型分析機器をインキュベシ

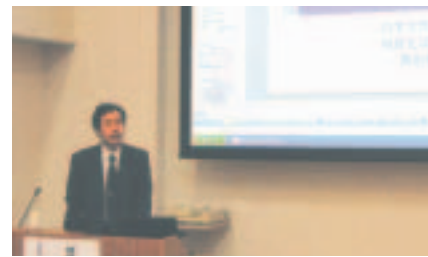
ョンセンターの入居企業や地元の企業の方等に使用して戴くために開催いたしました。

具体的内容として

1. 分析機械の概要について(どういう原理で何が測定できるのか等)
2. 各機器の分析例について
3. 蓄積された仕事を改善していく上で役立つ業務改善について

等を中心にご講演を戴きました。特に新規機能性材料の開発にあたっては構成元素、構造、形態区分による分類や、分析データを上手に活用して

イノベーションにつながる高機能・高性能を持った次世代の商品等についてのご説明に興味を持ちました。帰りには、お土産に杉の花粉の写真付きの「6ヶ月カレンダー」を戴きました。



西出利一氏

## 平成18年度 第2回機能性材料・製造プロセス研究会



主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構

共催：日本大学工学部、福島大学地域創造センター、奥羽大学

福島県ハイテクプラザ

実施年月日：平成18年11月7日(火)

実施場所：ビッグパレットふくしま

参加人員：約30名

今回の機能性材料・製造プロセス研究会は、福島大学に創設されました、理工学群共生システム理工学類において、講演と理工学類研究実験棟の見学を下記のとおり開催いたしました。



佐藤理夫氏

## ◆「理工学類研究実験棟」の概要説明

はじめに、今回の研究会コーディネーター 福島大学教授 産業システム工学専攻 佐藤

理夫氏から平成16年10月に理工学群共生システム理工学類が設置されたことに伴い建設された「理工学類研究実験棟」について説明していただきました。

## ◆講演会

テーマ1「化学の知恵で安定分子を活性化する」  
講師：福島大学 助教

産業システム工学専攻  
大山 大氏



大山 大氏

有機金属化学については、既存の反応の理解が進んだことにより、分野として新たな方向の設定が必要であり、今後は、難度の高い反応に挑戦し、理解をしていかなければならないこと、資源・エネルギー・環境を考慮した反応を、新しく開発していかなければならないことなどについて講演していただきました。

## テーマ2

「最近の生産管理の動向」

講師：福島大学教授

産業システム工学専攻

星野珙二氏



星野珙二氏

生産管理とはどのように考えるべきなのか、歴史をさかのぼり大量生産方式とはどのように考えられていたのか、そして現代の生産管理の問題点、サプライチェーン・マネジメント、トヨタ生産方式について講演していただきました。

## ◆施設見学

・理工学類研究実験棟の見学  
7階建、延床面積3,861.90㎡の研究棟を佐藤教授の案内で見学しました。

## 平成18年度 インキュベーションセンター運営状況

### 1.産学官連携による「人材育成事業」と「新事業創出」について

#### 1)産学官連携高度製造技術人材育成事業(マイスターズカレッジ)

県内製造業を対象に、先端分野に対応した基盤的製造技術の高度化を図る研修事業を産学官連携により、製造現場の中核となる人材育成事業として「Meister'College」を開催いたしました。座学は会議室を使用し、実習は一部試作センターを使用しました。

#### 2)研究開発プロジェクト事業

支援室入居企業と日本大学工学部工学研究所次世代工学技術研究センターと共同研究開発しているプロジェクト事業は「地域新生コンソーシアム研究開発事業」「都市エリア産学官連携促進事業」「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト」等で産業クラスターを形成し新商品開発を目指しています。

#### 3)研究開発助成事業

テクノポリス推進機構では研究開発の促進を図るため、企業に研究開発経

費の一部を助成する「研究開発助成制度」を設けています。今支援室入居企業が「研究開発助成」を受けて新商品開発に邁進しています。

現状の進捗は試作センターにて「プロトタイプ試作」を製作・試運転中です。

#### 4)地域連携事業

地元中小企業のニーズと日本大学工学部の持つシーズを結びつける事により「新事業創出」を図るため、企業の経営者と日本大学の先生とが情報交換等交流を行い、立ち上げを促進しています。

## 2. インキュベーションセンター支援実績件数について

センターの開所から現在までの相談等の支援実績件数は19件です。支援室入居企業は当センターの各種機能を活用し大学との連携を深め、初期の事業計画達成に向け日夜活動しています。

## 3. インキュベーションセンター視察件数について

センターを視察に訪れた件数は関係行政、マスコミ、学生等23件ありまし

た。テレビ、新聞等マスコミでセンター紹介や支援室企業が報道された事が地域関係者の関心を深めた結果と思われます。又海外からの視察も2件ありました。

## 4. 支援室入居企業の本店移転登記について

支援室入居企業2社が本店を支援室に移転登記しました。地場発の新事業創出が待たれます。



# 平成18年度 ニーズプル型UD製品開発事業(事業報告書より)

## 主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構(福島県委託事業)

◆本事業は、福島県内の事業所などを対象にユニバーサルデザイン(以下、UDという)製品開発の提案を公募して、そこで選定された提案が具体的な製品となるまでの支援を行うものです。

◆事業の取組みは、本年度が3年目になりますが、今回は、これまでの応募方法とは異なり、まず一般消費者を対象にUD製品として開発して欲しいと思うテーマ(ニーズ)を広く県内に公募して、その中から選定された開発テーマを具体化する製品の製作者を募集するという二段階方式の選定方法で実施しました。

◆この狙いは、昨年度までの支援の取組みが選定されたUD製品のメーカー側に力点を置いていたために、当該製品のユーザー側の意向がやや反映されにくかったという反省から、今回は消費者のニーズを強く意識した、いわゆる「ニーズプル型のUD製品開発」を意図したことによります。なお、本年度の選定評価委員会は、当該分野における県内各界を代表する11名の委員で構成されました。

◆一般消費者から公募した開発テーマ(ニーズ)は、20代の若者から70代の高齢者まで全部で50件の応募がありました。

◆その応募内容は、いずれも身近な生活に関わる多種多様な開発テーマが提案され、中には具体的に図解したUD製品の提案などもありました。

◆最も目立った提案は、日常使用する多様な椅子類(車椅子を含む)や食器器具類などでしたが、それらを大別すると、日常生活場面の「衣」、「食」、「住」に関わるUD製品の開発テーマでした。

◆それらの応募されたテーマについて、選定評価委員会で慎重に審議の結果、次の4つの開発テーマについて製品化を公募することとしました。

- ①衣類などを中心としたファッション

- ②色彩を活用したカラー系のUD製品
- ③移動が安全で快適なアクセス系のUD製品
- ④椅子などのリビング系のUD製品

その後、広く県内に当該テーマをPRして、UD製品の製作者を公募した結果、上記の開発テーマに対応した次の3者のUD製品について開発を支援することが、各選定評価委員により了承されました。

- ①UDの礼服 (製作者：今泉女子専門学校)
- ②ガス圧付き座椅子 (製作者：(株)ベルテックス)
- ③絵文字&外国語表示シート集 (製作者：(有)チャイナックス)

※製品タイトルは、選定当初の名称  
◆なお、上記の各製品開発には、外部の専用アドバイザーが製品化に向けて支援することになりました。かなり限られた期間でしたが、その製品プロセスにおいて、2回の消費者モニタリングおよび選定評価委員による評価などを経て、年度内に当該UD製品の成果発表会を開催することができました。

◆最終的にまとめられたUD製品は、専門アドバイザーや消費者モニタリングなどの意見を反映して、いずれも商品化に向けたかなりの具体的な成果品になりました。

◆特に、UD礼服は、女性が妊娠して体

型が変化した場合にも対応できる冠婚葬祭用の礼服で、ファッション的にも洗練されたデザインに仕上げられた完成度の高いものでした。また、座椅子は、着座者が座面からの立ち座り動作をスプリング機構で補助するものに変化し、手触りの良い木製椅子に仕上げられました。さらに、カラーUD製品を意図した表示シートは、販売価格などを配慮して普及版の多様なデザインの表示シートにまとめられました。

◆今回提案された3つのUD製品は、過去2年間に提案された6つのUD製品とともに、今後さらに改良を重ねて、消費者ニーズに対応した新たなUD商品として展開されていくことが期待されます。

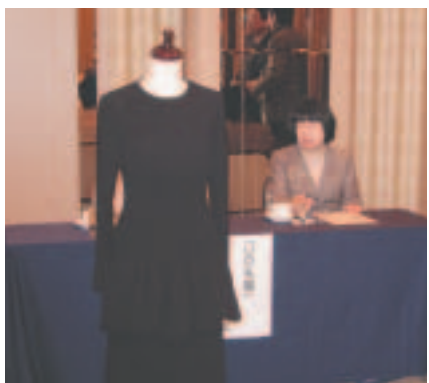
◆最後に、各UD製品の開発に専門的な立場からご支援をいただいた専門アドバイザーの先生方および消費者モニタリングにご協力をいただいた多くの諸氏に対して、ここに厚く謝意を表します。



ガス圧付き座椅子



絵文字&外国語表示シート集



UD礼服

主催：(財)福島県産業振興センター、福島県

共催：(独)日本貿易振興機構福島貿易情報センター、福島県商工会議所連合会、福島県商工連合会、福島県中小企業団体中央会、(財)郡山地域テクノポリス推進機構、福島県中小企業家同友会  
実施年月日：平成18年11月16日(木)・17日(金)

実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：5,000名

今回から福島県発の製品、技術、サービスを中心とした展示並びに情報発信を図るため名称を「ビジネスクリエーション東北」から「ビジネスクリエーションふくしま」と改め開催されました。

会場には、県内産業を中心に、個性的で独創性のある自社開発製品、新技術力を駆使した部品や新事業サービスなどを一堂に、80企業・団体、103小間の出展があり、当財団でも「テクノポリスコナー」を設置しました。

サブテーマを「地域基盤技術の集積・新たな連携への挑戦」とし、各社の展示に加え出展者プレゼンテーションなどにより交流が活発に進展し、個々の企業が持つ技術力やマーケティング力が結集され、新製品開発や新たな応用・発展などの連携の輪が広がりました。また、同時開催事業として、「メディカルクリエーションふくしま2006」も開催されました。



## セミナー・発表会等

- ・ 兼業法セミナー
- ・ ハイテクセミナー
- ・ 医療福祉機器フォーラム
- ・ 医療福祉機器シーズ発表会
- ・ JETRO医療・福祉機器シンポジウム
- ・ 医療現場ニーズ発表会
- ・ 下請取引適正化推進講習

## 理事会、評議会／総会、運営委員会の開催報告(平成18年8月～平成19年5月開催分)



### ◆(財)郡山地域テクノポリス推進機構(平成18年度)

#### 第2回評議会 平成19年3月13日(ビッグパレットふくしま)

- ・ 理事の選任
- ・ 任期満了に伴う理事及び監事の改選
- ・ 平成18年度補正収支予算
- ・ 平成19年度事業計画
- ・ 平成19年度収支予算
- ・ 一時借入に伴う担保設定

#### 第2回理事会 平成19年3月22日(ビッグパレットふくしま)

- ・ 理事の選任(報告)
- ・ 役員の選任
- ・ 任期満了に伴う理事及び監事の改選(報告)
- ・ 任期満了に伴う役員の改選
- ・ 任期満了に伴う評議員の改選
- ・ 平成18年度補正収支予算
- ・ 平成19年度事業計画
- ・ 平成19年度収支予算
- ・ 一時借入に伴う担保設定(平成19年度)

#### 第1回評議会 平成19年5月15日(ビッグパレットふくしま)

- ・ 理事及び監事の選任
- ・ 平成18年度事業報告
- ・ 平成18年度決算

#### 第1回理事会(書面表決)平成19年4月20日

- ・ 評議員の選任

#### 第2回理事会 平成19年5月25日(予定)(ビッグパレットふくしま)

- ・ 第1回理事会(書面表決)結果について(報告)

#### ・ 役員の選任

- ・ 平成18年度事業報告
- ・ 平成18年度決算

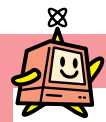
#### ◆郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会(平成19年度)

#### 運営委員会 平成19年4月18日(ビッグパレットふくしま)

- ・ 運営委員の選任
- ・ 平成18年度事業実績報告・決算
- ・ 平成19年度事業計画・予算

#### 総会 平成19年4月24日(ビッグパレットふくしま)

- ・ 協議会委員の選任
- ・ 平成18年度事業実績報告・決算
- ・ 平成19年度事業計画・予算



## ニューコメちゃんのITワンポイント

ニューコメちゃん日記 ○月×日 「SNS」のビジネス活用

◆ 「SNS」という言葉をご存知でしょうか。すでに利用されている方も多いと思いますが、「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サイト)」は、人と人のつながりを促進するコミュニティ型のサイトのことを言い、サイト上で、共通の趣味や仕事を持つ者同士が、それらに対して意見交換をすることで新たな友人関係を広げることを目的としているサイトのことを言います。

◆ 日本での最も大きなSNSサイトは「mixi」で、ユーザーの数は現在800万人を超えています。世界中のSNSサイトユーザー数は1億人を超え、今なお加入者数は増加傾向にあります。SNSはなぜここまで人気があるのでしょうか。

◆ SNSサイト上では、初めに自分の写真やプロフィールなどを登録することからスタートします。それによりその人がどのような人が簡単に知ることができます。ブログなどに比べ、双方向コミュニケーションがとりやすい仕組みが多く用意され、自分の趣味や仕事などの嗜好や環境に合わせた共通の話題は親密度を高め、充実したコミュニケーションをとることができます。そのような高密度な双方向コミュニケーション

がSNSの人気の秘密のようです。

◆ その人気のSNSを単に友人を広げる場だけでなく、ビジネスにも利用しようという動きがあります。総務省においてもビジネスでの利用促進のため、ビジネスにおけるSNS活用事例を募集し、その結果を公開しているように、SNSを積極的にビジネスシーンに利用しようという動きが活発となっています。

◆ ビジネスシーンにおいて最も注目されているSNSの利用方法は、サービスや商品などのファン向けに、交流の場を提供し、そこからの口コミによる販売・利用の促進、ビジネスSNSで収集したユーザーの生の声を商品マーケティングに利用という使い方です。SNS先進国である米国では、履歴書を公開してビジネスにつなげるSNSなどもあるようです。

◆ そのような社外的な使い方だけではなく、社内向けSNSにより部署や役職を超えた新しい人間関係形成や、情報交換の場としての使い方もあります。現在すでにSNSをビジネスに利用している企業もあり、今後のビジネスシーンにおけるSNS利用は増えそうです。

## 役員・職員の紹介

### ◆(財)郡山地域テクノポリス推進機構・役員

(任期 平成19年4月1日～平成21年3月31日)

H19.4.1現在(敬称略)

理事長 大高善兵衛(郡山地域テクノポリス推進協議会長・郡山商工会議所会頭)

副理事長 原 正夫(郡山地域テクノポリス市町村協議会長・郡山市長)

副理事長 内堀雅雄(福島県副知事)

常務理事 熊田正治(郡山商工会議所理事)

理事 相楽新平(須賀川市長)

理事 木賊政雄(鏡石町長)

理事 加納武夫(石川町長)

理事 車田次夫(玉川村長)

理事 鈴木義孝(三春町長)

理事 鈴木雄次(前福島県商工労働部長)

理事 深谷幸弘(須賀川商工会議所会頭)

理事 滝田 武(郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・郡山地区商工会広域協議会会長)

理事 境田孝意(郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・玉川村商工会長)

理事 大槻順一(郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・郡山商工会議所副会頭)

理事 能勢秀幸(株式会社大東銀行取締役社長)

理事 小野沢元久(日本大学工学部長)

理事 宮野壮太郎(福島県ハイテクプラザ所長)

理事 小山紀男((財)福島県産業振興センター理事長)

監事 小針健治(福島信用販売株式会社代表取締役会長)

監事 横山 晃(東北電力株式会社執行役員福島支店長)

監事 佐藤頼欣(前郡山市商工労働部長)

### ◆(財)郡山地域テクノポリス推進機構・評議員

(任期 平成19年4月1日～平成21年3月31日)

H19.4.20現在(敬称略)

山川充夫(福島大学理事・副学長)

大川 知(会津大学コンピュータ理工学部教授)

依田満夫(日本大学工学部次長)

影山 弥(郡山女子大学家政学部教授)

国分寿雄(福島県商工労働部産業創出グループ参事)

渡辺善信(郡山地域テクノポリス市町村協議会事務局長・郡山市商工労働部参事兼商工振興課長)

磯 明夫(福島県ハイテクプラザ副所長)

道喜俊弘(福島県農業総合センター副所長)

上村和彦((財)福島県産業振興センター常務理事)

吉川勝郎(吉川特許事務所長)

近藤準一(須賀川商工会議所副会頭)

作田秀二(郡山商工会議所 工業部会長)

福井邦顕(郡山商工会議所 工業委員長)

吉田末男(郡山中央工業団地会会長)

神田雅彦(須賀川横山工業団地共栄会会長)

内山 忠(栃東邦銀行常務取締役)

鴫田秀夫(栃大東銀行取締役本店営業部長)

内藤清吾(郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会委員)

### ◆郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会・委員

(任期 平成19年4月1日～平成21年3月31日)

H19.4.1現在(敬称略)

会長 大高善兵衛((財)郡山地域テクノポリス推進機構理事長)

副会長 太田久雄(郡山市副市長)

副会長 小野沢元久(日本大学工学部長)

副会長 大槻順一(郡山商工会議所副会頭)

委員 深谷幸弘(須賀川商工会議所会頭)

委員 滝田 武(郡山地区商工会広域協議会会長)

委員 境田孝意(玉川村商工会長)

委員 福井邦顕(郡山商工会議所工業委員長)

委員 渡辺 篤(栃NTT東日本・福島取締役郡山支店長)

委員 鈴木正博(栃福島情報処理センター代表取締役社長)

委員 酒井良信(栃エフコム代表取締役社長)

委員 内藤清吾(エヌケー・テック栃代表取締役社長)

委員 水上哲夫((有)ぱすわーど代表取締役)

委員 上野隆司(福島県企画調整部電子社会推進グループ参事)

委員 国分寿雄(福島県商工労働部産業創出グループ参事)

委員 磯 明夫(福島県ハイテクプラザ副所長)

委員 富樫正典(郡山市企画部長)

委員 小林正司(須賀川市産業部長)

委員 木賊正男(鏡石町総務課長)

委員 三瓶信一(石川町産業振興課長)

委員 鈴木一夫(玉川村企画産業課長)

監事 渡辺保元(郡山市商工労働部長)

監事 斎藤 隆(郡山商工会議所理事兼事務局長)

### ◆郡山地域Tリエゾン機構運営委員会・委員

(任期 平成19年4月1日～平成20年3月31日)

H19.4.1現在(敬称略)

委員長 白井健二(日本大学工学部情報工学科教授)

委員 竹中豊文(日本大学工学部情報工学科教授)

委員 内藤清吾(エヌケー・テック栃代表取締役社長)

委員 水上哲夫((有)ぱすわーど代表取締役)

委員 鈴木和隆(フォルテ・システムズ栃代表取締役)

委員 水野和彦((有)ミズノ製作所代表取締役)

委員 本田啓之(栃コンピュータシステムハウス専務取締役)

委員 鈴木正広(栃福島情報処理センター)

委員 斎藤正弘(栃エフコム副本部長)

委員 石井幸江(栃合資会社バネネットワールド代表)

委員 菊池輝夫(福島県商工労働部地域経済領域産業創出グループ主任主査)

委員 伊藤達郎(郡山市企画情報政策課長)

委員 杉田秀夫(須賀川市産業部商工観光課長)

委員 木賊正男(鏡石町総務課長)

委員 三瓶信一(石川町産業振興課長)

委員 鈴木一夫(玉川村企画産業課長)

### (財)郡山地域テクノポリス推進機構事務局

#### ◆職員(H19.4.1現在)

1 常務理事兼事務局局長 熊田正治(郡山商工会議所より出向)

2 次長兼総務部長 金子達也(県より派遣)

3 企画管理課長 大沼伸之(郡山市より派遣)

4 技術振興課長 松宮崇文(須賀川市より派遣)

5 新事業支援課長 青山茂夫(大東銀行より出向)

6 技術コーディネーター 宮越 稔(テクノポリス)

7 事務担当 山本美香(テクノポリス)

### 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

8 インキュベーションマネージャー(兼務)

宮越 稔(テクノポリス)

9 技術指導員 中井浩二(テクノポリス)

10 事務担当 千原英美(テクノポリス)

### 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

11 事務担当 服部志保(ニューコム)



## 転出・転入

### お世話になりました

●平成19年3月31日付転出

事務局次長兼総務部長 山下 耕平  
(福島県出納局審査指導グループ主幹へ転出)

インキュベーションマネージャー  
永島 巖  
(退職)

### よろしくお願ひします

●平成18年4月1日付転入

事務局次長兼総務部長 金子 達也  
(福島県商工労働部総務企画グループ主幹より転入)

●平成19年4月1日付内部移動

インキュベーションマネージャー  
兼技術コーディネーター 宮越 稔  
(テクノポリス技術コーディネーターより異動)